

## 研究主題「折り合いを付けながら集団決定することができる児童の育成

### —話し合い活動における段階的な指導の工夫—

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課  
昭島市立玉川小学校 主幹教諭 池田 道

#### 第1 研究のねらい

中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（平成20年1月）においては、「社会状況の急激な変化に伴い、人間関係の希薄化が進む中、自分に自信がもてず将来や人間関係に不安を感じている子供たちの現状」を踏まえ、集団の中で自信をもたせることの必要性が指摘されている。

また、この答申を受けて改訂された、小学校学習指導要領（平成20年3月告示）の特別活動の目標には、「よりよい人間関係を築く力」の育成を重視することが示され、また、学級活動では「学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる」ことが新たに目標として示された。

実際に、私がこれまで指導してきた児童の中にも、新しい友達と積極的に関わろうとせず、以前からの人間関係に固執してしまう児童や、間違いや失敗を恐れて、自分の意見に自信がもてない児童がいた。

これらの社会状況の変化や児童の実態を受け、私は、自分に自信をもち、互いに認め合える心地よい人間関係を築くことができる児童を育成することが重要であると考えた。そのために、学級活動における学級会において、児童による話し合い活動を充実させることの必要性を感じた。特に、話し合い活動を通して、児童一人一人の考え方の違いや多様性を超え、一人でも多くの考えを生かして、折り合いを付けながら一つの意見にまとめるために、集団決定することができる力を児童に身に付けさせれば、互いを認め合う力が育成できると考えた。また、決まったことに対して、協力し、楽しく取り組むことができれば、心地よい人間関係を築くことができると考えた。そこで、本研究では、折り合いを付けながら、集団決定することができる児童の育成を目的とし、そのために、話し合い活動における折り合いを付けるための段階的な指導方法を開発することとした。

#### 第2 研究仮説

折り合いを付けるための段階的な指導を取り入れた話し合い活動を行えば、児童は他者と折り合いを付けて集団決定することができるようになるだろう。

本研究では、折り合いを付けることを次のように定義した。

少数意見を大切にし、安易な多数決は行わず、話し合いを重ねて納得して物事を決定すること。また、決定したことには気持ちよく従うこと。

#### 第3 研究の内容と方法

##### 1 基礎研究

小学校学習指導要領解説特別活動編（平成20年8月）の学級活動の目標を分析し、「望ましい人間関係」についての定義を整理した。教育研究員研究報告書 小学校特別活動から、話し合い活動の先行研究を分析し、話し合い活動において、折り合いを付けながら集団決定する指導法を開発することが、望ましい人間関係を形成していくことの一つの手掛かりになると考えた。

## 2 実態調査（平成 27 年 7 月実施）

### (1) 学級会に関する児童の実態を把握するための調査

都内公立小学校の第 5 学年の児童（計 66 名）を対象に質問紙調査を行った。「私は話し合いの途中で、理由によっては、自分の考えを変えることができる」の質問に、学年全体の 24% の児童が否定的な回答をした。

### (2) 実態調査からの考察

実態調査の結果から、折り合いを付けることを目的とするには、自分の考えを必要に応じて変えることが求められる。しかし、学年全体の児童の約 4 分の 1（2 組においては約 3 分の 1）が否定的な意見であることから、折り合いを付けながら集団決定するためには、さらに、話し合いを充実させ、折り合いを付ける力を児童に身に付けさせる必要性があると捉えた。

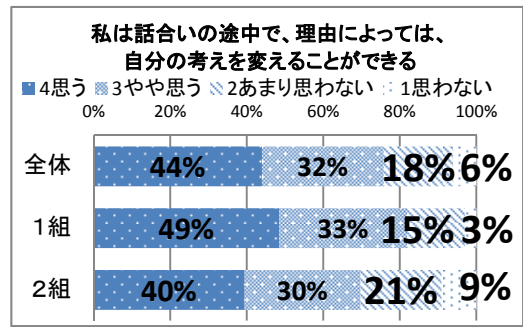


図 1 学級会に関する実態調査(事前)

## 3 開発研究

### (1) 折り合いを付けるための六つの段階的な指導の工夫

本研究では、小学校学習指導要領解説特別活動編に示されている「よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動を充実する」ための指導項目を踏まえ、六つの段階的な指導として、児童の学習内容と教師の指導内容を構築した(表 1)。

表 1 折り合いを付けながら集団決定するための六つの段階的な指導

小学校学習指導要領解説特別活動編（抜粋）

	段階	児童の学習内容	教師の指導内容
ア 理由を明確にして、自分の言葉で思いや考えを話すことができるようにする。	①	自分の意見をもつ。 【話す・書く】	学級会ノートを事前に配付し、自分の意見とその理由を一緒に書かせる。
イ だれの話でも、相手の立場に立って真剣に聞くことができるようにする。	②	互いの意見を聞く。 【聞く・うなづく】	他者の意見を最後まで聞き、他者の考えを受け止めさせる。
ウ 互いの意見や考えの相違点を理解し合えるようにする。	③	他者との違いを理解する。 【比べ合う】	他者と自分との意見の違いを理解させる。その上で、自分の意見で修正できる部分は修正させる。また、相手を説得する場合は、相手の気持ちも考えながら説得力のある理由を述べさせる。
エ 互いの思いや気持ちを察し合い、そのよさを理解し合えるようにする。			他者と自分との意見を比べさせ、付け足したり、まとめたりして、合意点を見付けさせる。
オ 異なる意見について、説得したり、互いの意見のよさを生かしたり、折り合いを付けたりして集団としての意見をまとめることができるようにする。	④	全体の立場に立って合意点を見付ける。 【認め合う】	全員が決まったことに気持ちよく従って行動できるようにという視点で意見をまとめさせる。
カ 自分が賛成していないことに決まっても、集団決定したことについて、気持ちよく従い、協力できるようにするとともに、互いの気持ちを推し量った言動ができるようにする。	⑤	集団決定をする。 【まとめる】	実際にやってみて、振り返りをさせる。その際、協力して楽しく活動できたかという視点をもたせる。
	⑥	実践し振り返る。 【実践する・振り返る】	

### (2) 司会進行カード、発言お助けカード、学級会ノートの活用

#### ア 司会進行カードの活用

六つの段階的な指導を基に、折り合いを付けながら集団決定するための、学級会の「司会進行カード」を作成し、児童がカードを見ながら司会進行を行うようにした。

#### イ 発言お助けカードの活用

学級会において、折り合いを付けるために、他者を説得するときの話し方、自分の意見を変えるときの話し方等を身に付けさせるための「発言お助けカード」を作成し、学級会の際に児童がカードを用いながら発言を行うようにした。

## ウ 学級会ノートの活用

学級会において、折り合いを付けながら集団決定できたかという自己評価等を入れた「学級会ノート」を作成し、授業の終わりに児童一人一人が、ノートに振り返りの記入を行うようにした。また、児童の振り返りの記入の内容を、折り合いを付けられたかどうかを評価する資料として扱った。

### 4 検証授業（平成 27 年 10 月実施）

#### (1) 六つの段階的な指導を取り入れた学級会の指導計画

都内公立小学校第 5 学年（2 学級、計 66 名）を対象に検証授業を実施した。

【議題名】「クラス遊びを考えよう」（4 時間扱い）

	学習活動	教師の指導の留意点	時間	対象
第 1 時	1 「学級会についてくわしく知ろう」 実態調査結果より、学級の学級会の課題を知る。折り合いを付ける話し合いの流れを確認し、計画委員を決定する。  2 「議題を出そう」 議題は理由を添えて議題カードに記入する。 段階①【話す・書く】	1 事前の実態調査結果より、学級に応じた課題を挙げる。折り合いの意味を説明し、少数意見も大切に、みんなが納得したうえで、集団決定することを伝える。計画委員は輪番制で行い、司会を全員に経験させるようにする。 2 議題はやってみたい、解決したいといった内容を児童から出させる。(学級目標に近付けるための議題がふさわしい)段階①	学級活動	学級全員
第 2 時	3 「議題を決めよう」 議題・提案理由・めあて・決まっていることの確認をした後、 <u>学級会ノート</u> に記入する。  4 「議題についての意見とその理由を書こう」 <u>学級会ノート</u> に議題についての意見とその理由を記入する。 段階①【話す・書く】	3 条件はなるべく細かく提示しておく。 (例)日時、場所等。また、児童だけで決められないことの確認もしておく。 (例)金銭に関わること、時間割の変更、人権に関わること等。 4 <u>学級会ノート</u> に自分の意見とその理由も一緒に、他者に伝えられるように記入させる。また、学級会の事前準備についての振り返りも、 <u>学級会ノート</u> に記入させる。段階①	学級活動	学級全員
	・やりたいクラス遊びの意見を集約し、短冊にまとめる。	・計画委員で似ている意見を集約させておく。 ・短冊に意見を記入しておくことは、低学年で取られる場合が多いが、時間短縮にもつながるので準備させておく方が望ましい。	放課後	計画委員
	・話し合いの流れについての打ち合わせをする。  ア <u>司会進行カードの活用</u>	・司会の児童に、新たな意見の出させ方、意見が分かれた時のまとめ方、全員が納得できるような話し合いの進め方等を、 <u>司会進行カード</u> を使って練習させる。 ・黒板記録の児童には、見やすく分かりやすい板書の練習を指導する。	放課後	計画委員
第 3 時	5 「クラス遊びを考えよう」（話し合い活動） 六つの段階を取り入れながら、話し合いを進める。 ア <u>司会進行カードの活用</u> イ <u>発言お助けカードの活用</u> 段階①【話す・書く】 段階②【聞く・うなずく】 段階③【比べ合う】 段階④【認め合う】 段階⑤【まとめる】  ウ <u>学級会ノートの活用</u> 段階①【話す・書く】	5 段階① <u>学級会ノート</u> に書いた意見を発表させる。 段階②他者の意見を最後まで聞き、他者の考えを受け止めさせる。 段階③他者と自分との意見の違いを理解させる。 段階④全体の立場に立って合意点を見付けさせる。 段階⑤全員が決まったことに納得し、気持ちよく従って行動できるようにという視点で意見をまとめさせる。 段階⑥集団として優先する価値を選択させる。(めあて、経験、条件等) ・取り上げられなかった意見への配慮をする。 段階①話し合いの振り返りを、 <u>学級会ノート</u> に記入させる。	学級活動	学級全員
第 4 時	6 「クラス遊びをしよう」 前時で決定したものを実践する。 段階⑥【実践する】  7 「クラス遊びを振り返ろう」 活動後の振り返りを <u>学級会ノート</u> に記入する。 段階①【話す・書く】 段階⑥【振り返る】	6 段階⑥活動に自主的に取り組ませる。  7 段階①活動後の振り返りを <u>学級会ノート</u> に記入させる。 段階⑥振り返りの際、協力して楽しく活動できたかという視点をもたせる。	学級活動	学級全員

## (2) 児童の意識の変容

検証授業の前後で行った、質問紙調査から児童の意識の変容が見られた。特に、「私は話し合いの途中で、理由によっては、自分の考えを変えることができる」の質問に、他者の考えをよく聞き、考えることによって、みんなが納得できる考えであった場合には、自分の考えを変えることができると肯定的な回答をした児童は、全体で76%から90%に増えた。

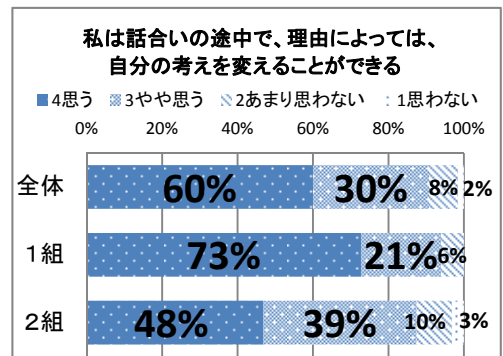


図2 学級会に関する実態調査(事後)

## (3) 児童の振り返り記述の分析

	学級会前	学級会中	学級会后・クラス遊び後
児童A	発言するのが嫌で発言しないでいたら、自分の納得していない意見に決まってしまう、嫌な思いが残る学級会の経験があった。	私だけ違う遊びを選んだので、なぜ、その遊びがいいと思ったのかを発言したら、他の人が私の意見も大事にしながら話し合いを進めてくれた。	自分の意見を言えば、自分の意見が採用されることもあるということが分かった。これからは、自分の意見をしっかり言おうと思った。
児童B	どんな遊びを提案するかを決めるときに、すぐに決められなかった。	自分が遊びたいものがあると思ったが、次はみんなが楽しく遊べるものを考えたい。	みんなで協力して、楽しく遊べたので、話し合っってよかったと思った。

児童Aは、発言がすることが苦手で消極的であったが、自分の考えを聞いてもらい、少数意見でも相手を納得させることができた経験を通して、自信につながったと考えられる。

児童Bは、自分が楽しめる遊びに固執してしまっことを振り返り、次の学級会では、学級全体の立場に立って、みんなが楽しめるものを考えようとする気持ちの変容が見られた。

## 第4 研究の成果

### (1) 成果

- ・ 一人一人の考えを大切にし、納得していない児童がいたら、他者の考えを否定せず、相手を説得する考えを言う児童の姿が見られた。
- ・ 自分がやりたいという気持ちだけでなく、学級にとってよりよい考えにしていこうと、自分の考えを変える児童の姿が見られた。
- ・ 自分の考えではないものに決定しても、決定したことに従って、楽しく協力して活動する姿が見られた。

このように、学級全体の事を考えて、段階⑤【まとめる】で折り合いを付けながら集団決定しようとする児童の姿が多く見られたことから、指導に一定の効果があることが分かった。

### (2) 課題

- ・ 六つの段階的な指導のうち、各段階の時間配分が上手くいかず、進行に課題が残った。発達段階によって達成できている段階については、時間を短縮し、特に、折り合いを付ける核となる段階④【認め合う】、段階⑤【まとめる】に時間をかける必要があった。
- ・ 検証授業の前後で同じ児童が、「自分の考えが大事にされていない」と回答していた。その原因を学級担任と連携し、児童の聞き取りを中心に追究していく必要があった。

## 第5 今後の課題

- ・ 学校全体で共通理解の下、学級活動の段階的な指導の手だてを取り入れた指導計画を作成し、話し合い活動を広く学校全体に推進していくことである。